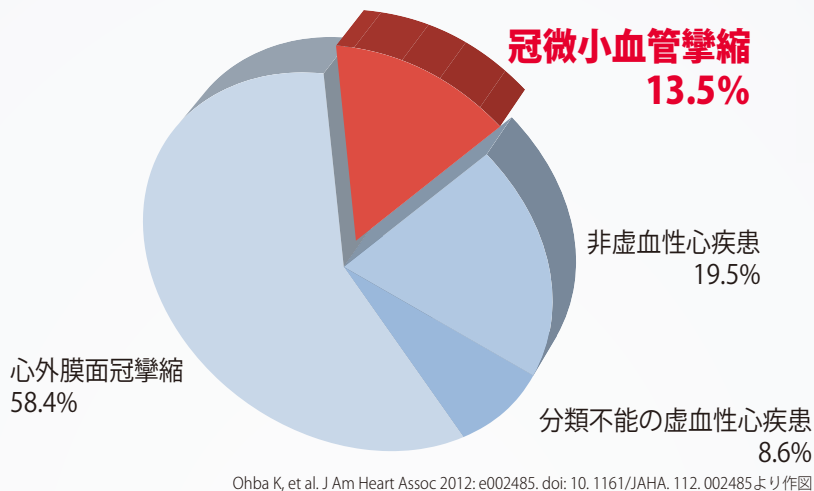


冠動脈造影では捉えられない、冠微小血管攣縮による狭心症は稀ではありません

労作時だけでなく安静時にも狭心症様症状を訴えるものの、冠動脈造影では冠動脈に狭窄病変がなく、冠攣縮誘発試験では心外膜表面の冠動脈に冠攣縮部位が認められない場合、「冠微小血管攣縮による狭心症」を疑います。今回は、冠微小血管攣縮の病態、診断法、および予後に関する知見について紹介し、併せて冠攣縮性狭心症に対するアダラートCR錠の有用性を紹介します。



冠微小血管攣縮の頻度



冠微小血管攣縮診断 = ACh負荷試験時の以下の所見

- 心外膜面冠攣縮 (-)
- 心筋乳酸産生 (+)
- 冠血流量 (↓; 一過性)
- 狭心症症状 (+)
- 虚血性心電図変化 (+)

対象: 狭窄病変を認めない狭心症疑い症例370例
 方法: 冠動脈造影時、ACh負荷による心外膜面冠攣縮 (>90% 血管狭窄) 誘発試験を実施。併せて、大動脈基部・冠静脈洞血液中の乳酸値、およびFloWireによる左前下行枝近位部における冠動脈血流量を測定。また、狭心症症状、虚血性心電図変化の有無を確認した。

冠微小血管攣縮の予後に関する報告

- 全66例のうち発作頻度が低下した42例において、CCB治療16例中完全消失は2例、CCB/ACE阻害薬併用治療18例中完全消失は10例であった (追跡期間3.3年) Masumoto A, et al. Int J Cardiol 2001; 81: 151-156
- 49例全例をCCB治療で経過観察したところ、半数の症例で発作は完全消失し、20%の症例で発作頻度は年2-3回であった (追跡期間4年) Ohba K, et al. J Am Heart Assoc 2012; e002485. doi: 10.1161/JAHA.112.002485

診断基準が統一されておらず、未だに治療法について一定の見解が無い
 ▶ 統一した診断基準のもとで、多施設共同前向き研究による治療法の評価・確立が求められる



熊本大学大学院 生命科学研究所 循環器内科学講師 海北 幸一 先生のご紹介

経歴

1991年 (平成3年) 3月 熊本大学医学部卒業
 1991年 (平成3年) 6月 熊本大学医学部付属病院循環器内科研修医
 1992年 (平成4年) 4月 熊本市民病院内科
 1992年 (平成4年) 10月 熊本赤十字病院内科
 1993年 (平成5年) 4月 新別府病院循環器科
 1994年 (平成6年) 4月 熊本大学大学院医学研究科入学
 1998年 (平成10年) 3月 医学博士の学位取得 (熊本大学)
 1998年 (平成10年) 4月 熊本市民病院循環器科
 1999年 (平成11年) 7月 米国Vanderbilt大学メディカルセンター心臓部門 Research Fellow (Douglas E. Vaughan 教授)
 2002年 (平成14年) 4月 熊本大学病理学第二講座 (現細胞病理学分野) 助手
 2004年 (平成16年) 2月 熊本大学大学院医学薬学研究所循環器病態学助手
 2006年 (平成18年) 12月 熊本大学大学院医学薬学研究所循環器病態学講師
 2007年 (平成19年) 6月 熊本大学医学部付属病院循環器内科講師
 2008年 (平成20年) 10月 熊本大学医学部付属病院循環器内科医局長 (2012年3月まで)
 2012年 (平成24年) 4月 熊本大学医学部付属病院循環器内科講師
 現在に至る

資格

2001年 (平成13年) 9月 日本内科学会認定内科医取得 (第19284号)
 2003年 (平成15年) 3月 日本循環器学会循環器専門医取得 (第13877号)
 2004年 (平成16年) 6月 植え込み型除細動器/ペースメーカーによる心不全治療施設認定医
 2006年 (平成18年) 1月 身体障害者福祉法第15条指定医
 2007年 (平成19年) 9月 日本内科学会認定研修指導医
 2014年 (平成26年) 12月 難病指定医
 2016年 (平成28年) 4月 日本心血管インターベンション治療学会認定医

所属学会

日本内科学会会員
 日本循環器学会会員
 日本心臓病学会会員
 日本心血管インターベンション学会会員
 日本不整脈心電学会会員
 日本血栓止血学会会員
 日本循環器学会九州地方会幹事・評議員
 日本心臓病学会特別正会員 (FJCC)
 日本動脈硬化学会会員
 米国内臓病学会会員
 欧州心臓病学会特別正会員 (FESC)